

## 炭素イオンビームを用いたがん治療と将来

金澤 光隆

九州国際重粒子線がん治療センター

近年、炭素イオンビーム（重粒子線）によるがん治療が注目を集めており、千葉にある放射線医学総合研究所（放医研）の HIMAC を使って、これまでに 7000 名以上の患者がすでに重粒子線治療を受けており、その高い効果が明らかになっています。しかし、この新しい治療法の提唱は意外に古く、Robert Wilson の 1946 年の論文にまでさかのぼります。実際にイオンビームを使って、がん治療が行われたのは、アメリカのバークレイ研究所において、物理実験用に開発された弱収束のシンクロトロンを使って 1975 年に初めて行われました。Ne や He イオンビームを使って治療研究が行われましたが、1991 年にこの加速器は運用停止になり、アメリカでのイオンビームを使ったがん治療研究もストップしてしまいました。一方、放医研でがん治療専用加速器を使った重粒子線治療が始まったのは、バークレイ研究所での運用停止から数えて 3 年後の 1994 年になります。放医研でのがん治療は、アメリカのバークレイ研究所での経験も踏まえて、炭素イオンビームを使う事になりました。そして最初の年は 21 名の治療人数だったものが、最近では年間 800 名以上の患者が治療を受けています。又、治療対象のがんも最初は頭頸部がんに限られていたものが、最近では多くの部位のがんが治療されており、むしろ治療出来ない部位を述べる方が簡単な位です。さらにこのプロジェクトの目的であった放射線抵抗性のがんに関して、その治療成績の良さが注目されています。これらの結果を受けて、放医研以外でも炭素イオンを使える治療専用施設が建設されました。特に、3 番目に当たる群馬大学の施設は、これに先立って放医研で行われた小型加速器の開発成果を取り入れた施設で、面積比で約 1/3 にまで小型にしたもののが実現しています。これに続いて、4 番目の施設が鳥栖市に建設され、5 番目の施設が神奈川に建設中です。加えて計画中のものもあり、日本はこの分野で世界の先頭を走っています。本講演では私が所属している九州国際重粒子線がん治療センター（SAGA HIMAT）の紹介も含めて重粒子線による癌治療とその将来について講演します。

## 炭素イオンビームを用いた がん治療と将来

佐賀国際重粒子線がん治療財団  
SAGA-HIMAT  
金澤光隆  
Mitsutaka KANAZAWA

## がん治療の手段(modality)

### 1. 局所治療(local therapy)

手術(surgery)

放射線(radiotherapy)

### 2. 非局所療法(non local therapy)

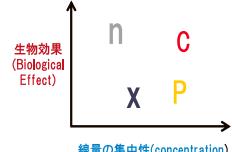
化学療法(chemotherapy)

免疫療法(immunotherapy)

1

## 放射線の種類(Type of radiation)

X線:X  
中性子:n  
陽子:p  
炭素:c



### 重粒子線の特徴(characteristic points of carbon beam)

#### 物理的な特性(physical)

放射線のがん細胞への集中性が良い  
周りの重要臓器への放射線を低く抑えられる、優しい治療

#### 生物学的な特性(biological)

放射線の生物効果の強さ

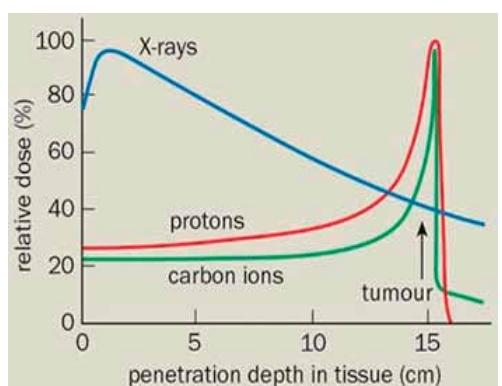
放射線抵抗性の癌にもよく効く

2

## 重粒子線によるガン治療の歴史 (History of carbon ion radiotherapy)

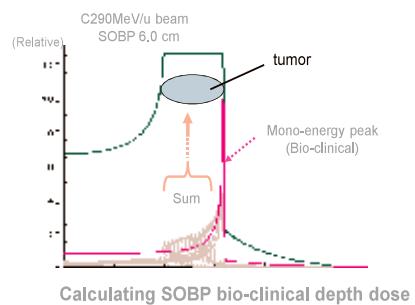
- 1946年 R.Wilson "Radiological Use of Fast Protons"  
—. Heavier nuclei, such as very energetic carbon atoms, may eventually therapeutically practical.—  
荷電粒子線のブレーキングピークを利用する可能性の示唆
- 1972年 X-CT (EMIスキャナ製作)
- 1975年 LBNL(USA)  
He, Ne beams were utilized for therapy.  
Stopped at 1991 with the machine shut-down.
- 1994年 Carbon ion radiotherapy has started  
at HIMAC (NIRS, Japan)
- 1997年 GSI (Germany) with also carbon beam.

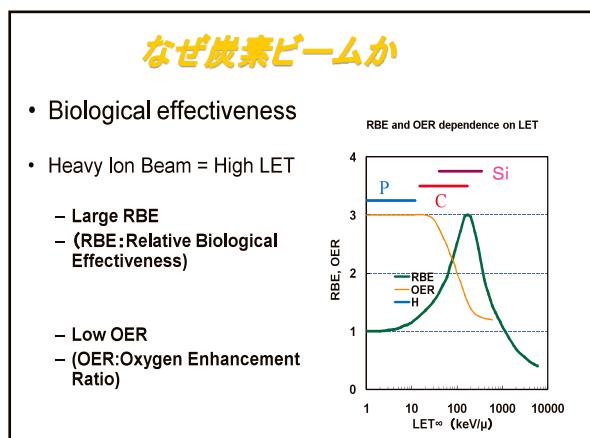
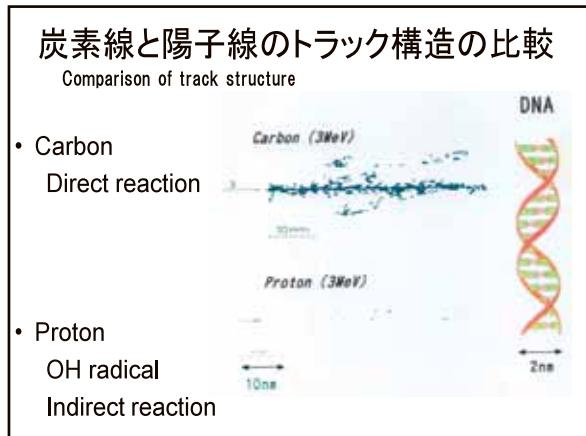
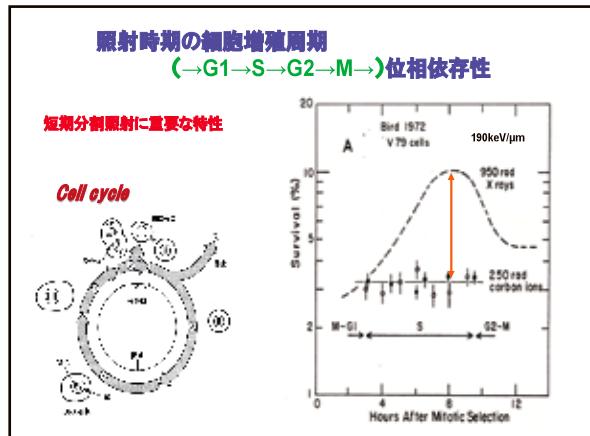
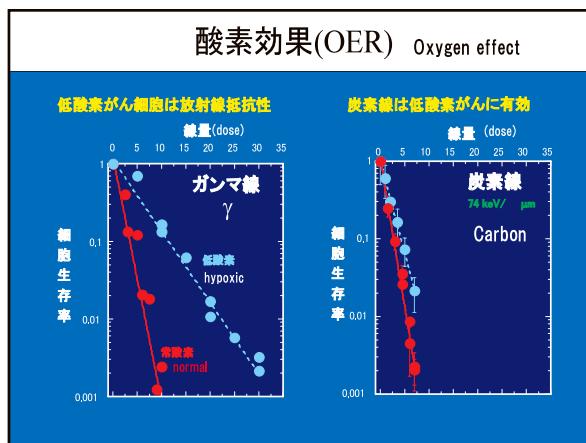
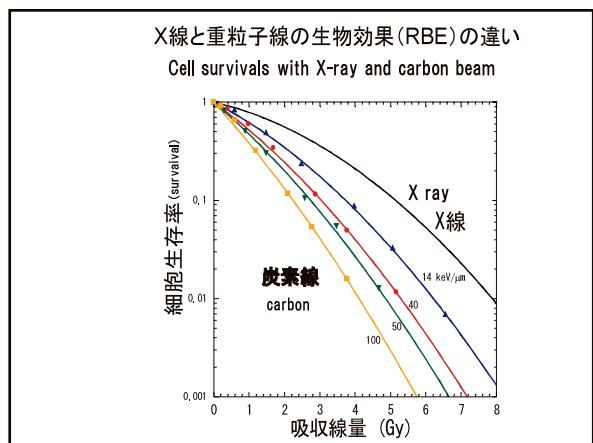
## 深さ方向の線量分布の比較



4

## (Spread Out of Bragg Peak)





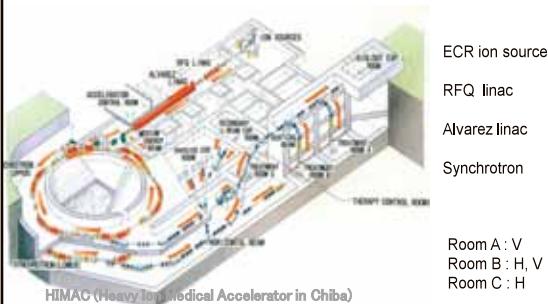
## HIMAC (1994)

初めての治療専用の重イオン加速器  
(Dedicated accelerator for therapy)

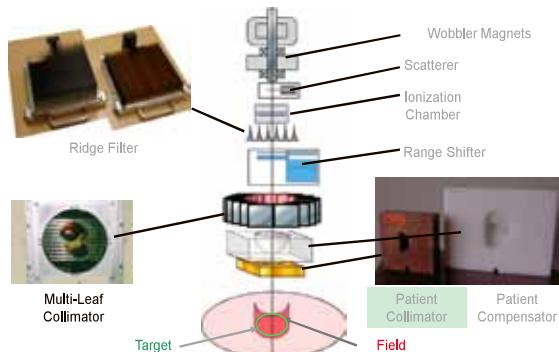


## HIMAC facility

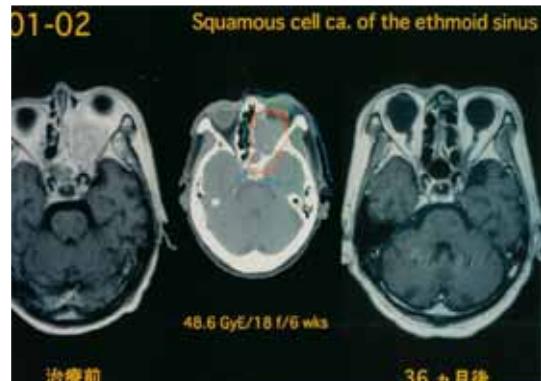
- Ion species: high LET ( $100\text{keV}/\mu\text{m}$ )  $\Rightarrow$  carbon (He - Ar)  
- Range : 30cm in soft tissue  $\Rightarrow$  430MeV/u (800MeV/u)



## Equipments of Wobbler method



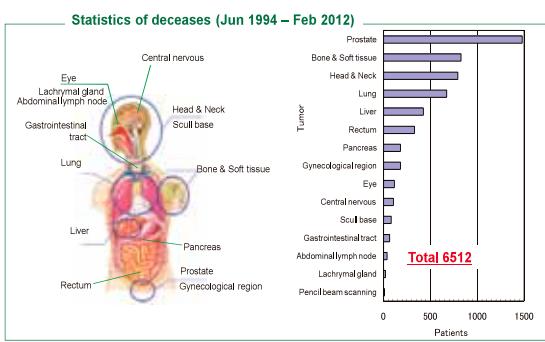
## 頭頸部の治療例(NIRS、1994)

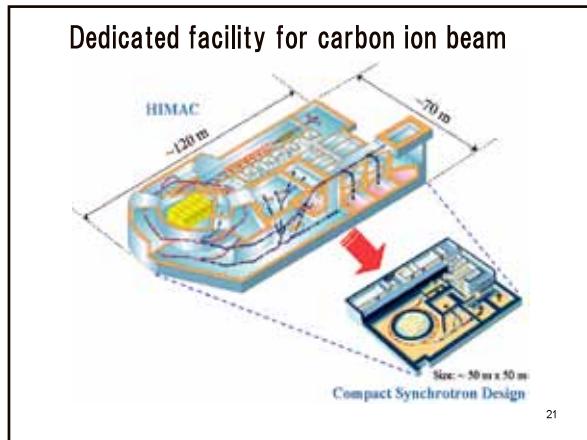
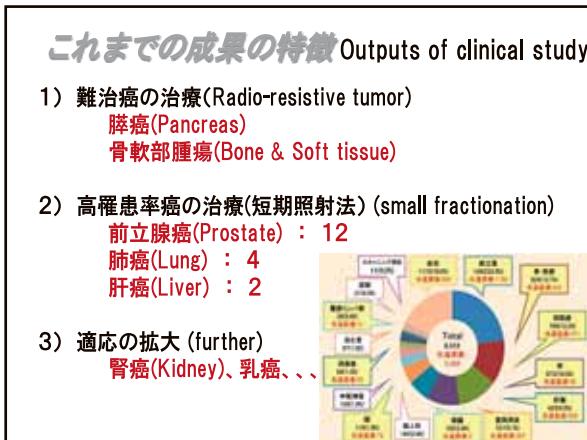
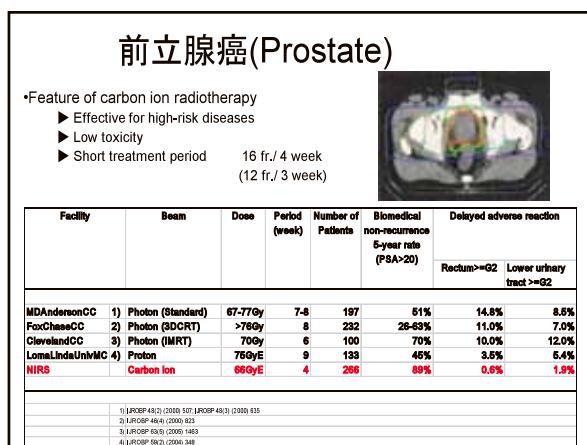
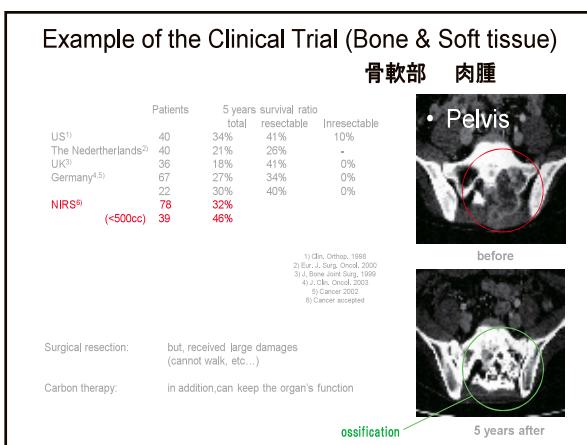


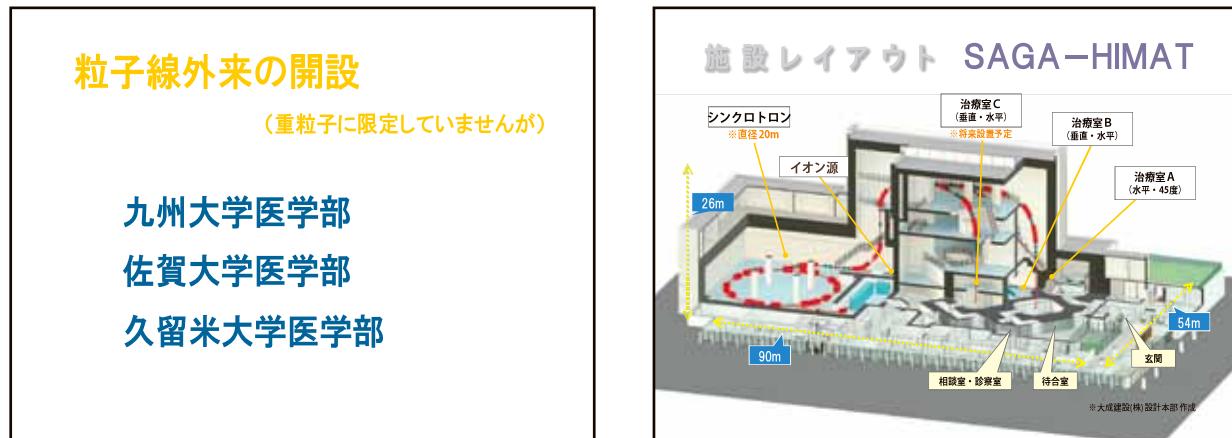
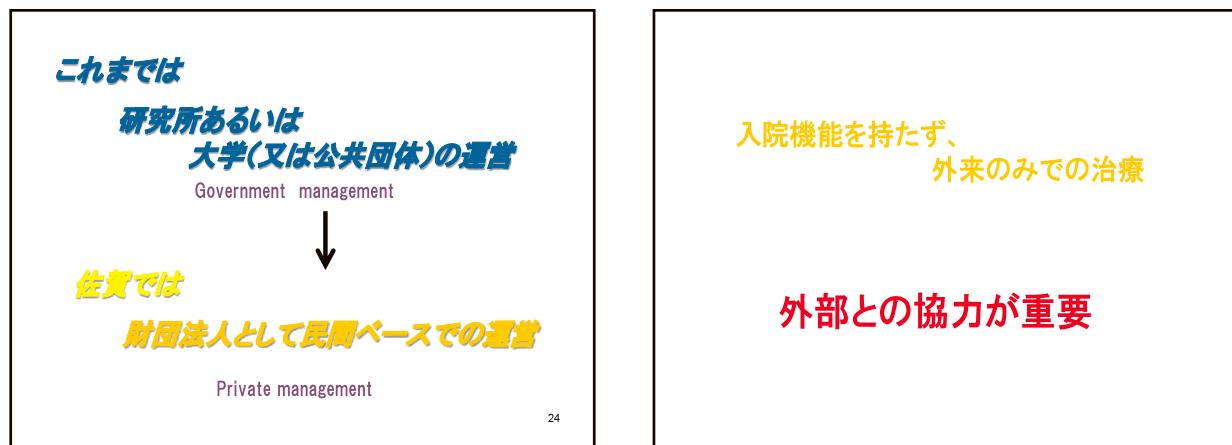
## 登録患者数の推移 (放医研)

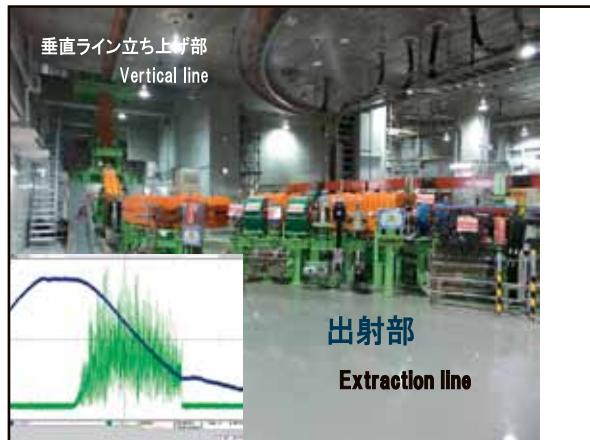
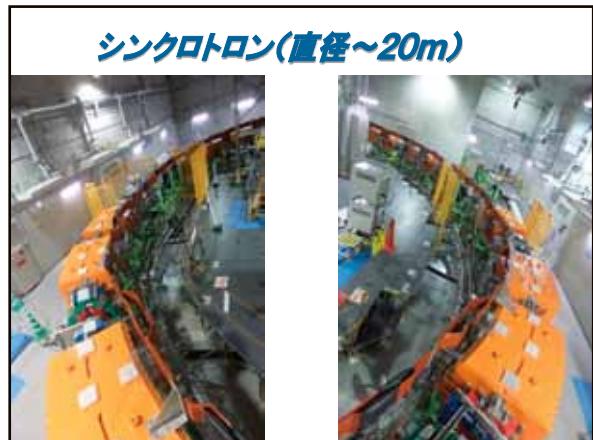
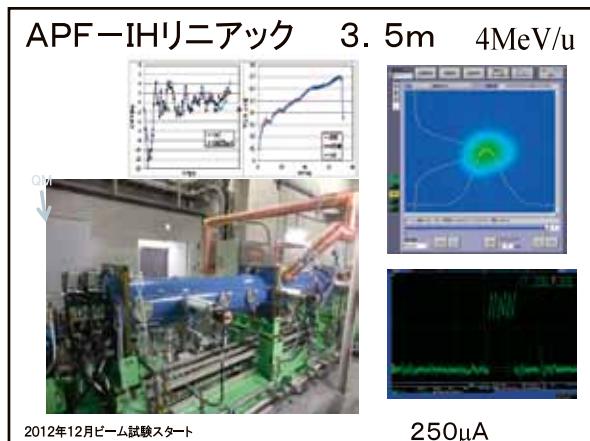
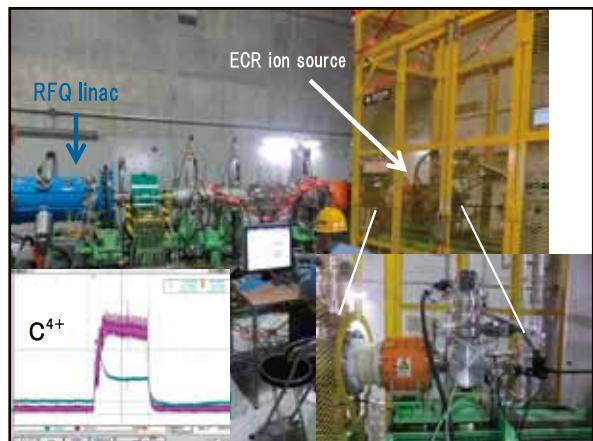


## Types of tumors (NIRS)









## 【 1st stage 】

**Room A : Horizontal/45° Oblique (Wobbling)**

**Room B : Horizontal/Vertical (Wobbling)**

Treatment Days

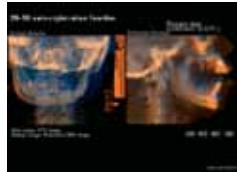
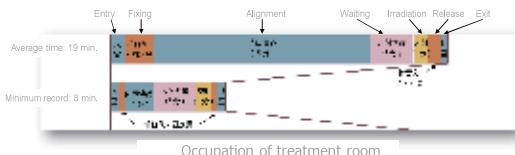
5 Days Weekly  
240 Days Yearly

Number of Patients  
(Maximum)

800 patients/year

**Financial valance**

## Automatic patient positioning system



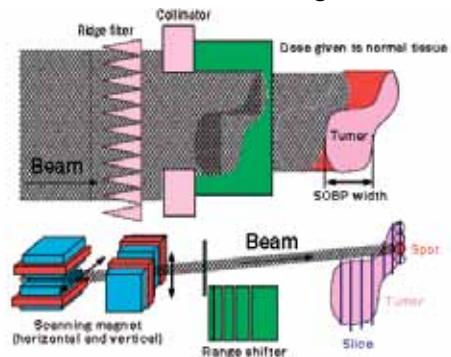
- Differentials of 3 parallel and 3 rotation patient position are automatically determined by subtraction of a measured FPD image from a treatment planning CT image.

- Average parallel accuracy: less than 0.4 mm

- Average rotation accuracy: less than 0.3 deg.

- Average computing time: less than 10 sec.

## Pencil beam scanning method



## Heavy ion radiotherapy worldwide



ご静聴ありがとうございました

